

### 第3章 避難の実態

高梁川の決壊を覚悟した緊迫感の中、命を守る行動として市民に避難行動を呼びかけた。町内会長、市議会議員、地区の代表者にも直接訴えかけをお願いした。

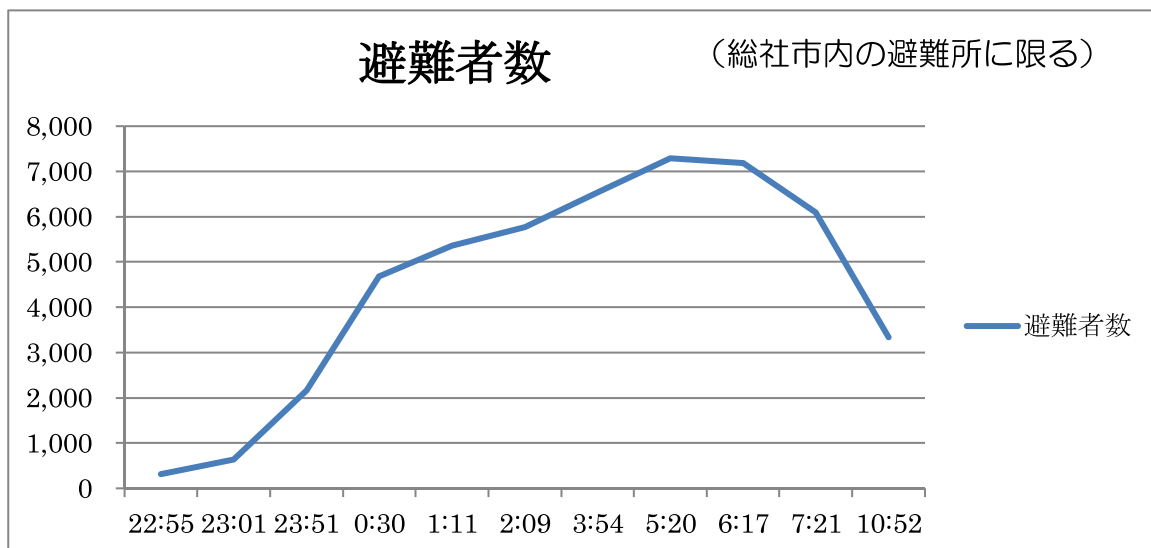
#### 1 避難所開設：7月6日

(⇒ 閉鎖：11月4日(中央公民館) 計122日間)

- 避難情報を発令(7月6日)後、48箇所の避難所開設(職員2人体制)
- 最多避難者数(市運営避難所 7月7日) 8,491人  
市内：7,291人(39箇所) 市外：1,200人(1箇所)
- 真備町からの避難者数 1,135人(7月9日)
- 最多受入施設・・・きびじアリーナ 1,369人(7月7日)
- 避難者数(避難所)の推移(7月6日～7日) 避難者数：人

時刻	19:00	22:55	23:01	23:51	0:30	1:11
避難者数	150	314	641	2,158	4,677	5,362
時刻	2:09	3:54	5:20	6:17	7:21	10:52
避難者数	5,766	6,533	7,291	7,179	6,093	3,342

(避難指示で避難：64%，避難勧告で避難：24%，避難準備情報で避難：7%)



- 空調がある施設へ移動(7月8日～11日)

7月11日：953人（うち真備町からの避難者792人）

7月12日～ 12箇所で受入（④以降：主に真備町避難者受入施設）

- ①久代分館 ②西公民館 ③昭和公民館 ④勤労青少年ホーム  
 ⑤サンワーク総社（医療配慮者）⑥清音福祉センター ⑦清音公民館  
 ⑧山手公民館 ⑨中央公民館 ⑩吉備路クリーンセンター  
 ⑪総社北公園 ⑫本庁西庁舎301・302（ペット避難所⑪⑫）

## 2 避難所別の避難者数（最多避難者7月7日 8,491人の内訳）

避難所	世帯	人数	避難所	世帯	人数
きびじアリーナ	351	978	県立大学	20	78
サントピア岡山総社	264	800	総社東小学校	26	75
総社中央小学校	159	637	山手公民館	27	74
清音ふれあい広場	40	450	新本小学校	26	67
常盤小学校	105	420	日羽公会堂8区 (10区・和光技研)	12	61
総社東中学校	166	402	阿曾小学校	14	56
清音小学校	121	385	東公民館	8	19
総社中学校	60	373	富山分館	2	6
昭和中学校	80	335	総社保育所	2	5
総社西中学校	80	320	下林公会堂	不明	70
昭和小学校	126	259	グリーンアンド リバーホーム	不明	60
清音公民館	92	247	北分館	13	53
維新小学校	90	200	昭和公民館	2	17
保健センター	62	170	小規模多機能型居 宅介護 縁	不明	8
総社北小学校	59	156	西公民館	2	5
神在小学校	29	117	山手福祉センター	1	1
山手小学校	28	108	さくばらランド	1	1
池田小学校	21	97	いずみの杜	1	1
総社西小学校	37	96	三清荘	1	1
総社小学校	20	83	吉備路クリーン センター	不明	1,200



きびじアリーナ

### 3 ペット避難所（7月10日，11日の最大値）

発災直後はきびじアリーナでペット同伴者の受け入れを行った。ペットのいる人は，これまで他者への遠慮から，避難を躊躇していたが，新たにペット同伴避難所を設け，避難を促すことができた。ペットも家族の一員である。

施設	世帯	人数	ペット	
西庁舎 301,302	20	46	犬 17 匹, 猫 6 匹	9月9日閉鎖
西公民館	4	8	犬 4 匹, 猫 3 匹	9月16日閉鎖
総社北公園会議室	2	6	犬 3 匹	7月21日閉鎖



日本初 公設ペット避難所開設

#### 4 全避難所開設数，避難者（～11月4日）

	開設	延避難者(人)	備考
指定避難所	44	44,638	日羽公会堂，湛井事務所，保健センター含む
自主避難所	16	3,213	吉備路クリーンセンター含む
福祉避難所	5	158	
計	65	48,009	

#### 5 避難所運営職員 総社市 1,333人

##### 【評価】

平成30年7月豪雨では、土砂災害だけでなく浸水被害への警戒も必要となったために途中で避難所の変更が必要となった箇所もあった。

平時から、地域の危険箇所を把握しつつ、浸水被害も想定した適切な避難所の指定を行うことが重要である。

・発災直後、開設された避難所で、食料の調達等が優先して進められたが、避難が長期化する中で避難所の環境改善も課題となった。

今後の災害に備え、平時から避難所への計画的な備蓄品等の整備や、避難所への多目的トイレの設置等を進めるとともに、避難所開設後に速やかな物資の調達を行うことが必要である。

・県獣医師会、しつけ等の専門家、動物愛護センター、保健所などとも連携しつつ、全国で初めて公的施設内にペット同伴避難所を開設した。これは、被災者の精神的な安定や、ペットの健康維持につながったものと考えられる。

今後の災害に備え、平時からペット避難所の確保等について検討していく必要がある。

・避難所の運営や避難者の健康管理に当たっては、AMDA、吉備医師会、歯科医師会、薬剤師会、新潟市などの支援を受けながら進められた。災害関連死を出すことなく避難所を運営できたことは大きな成果であったと考えられる。

また、多くの地域で浸水したことを踏まえると、豪雨発生時の緊急避難所として、民間施設を含め、特に建物の2階以上を緊急避難場所として活用する必要がある。

このような経験も踏まえ、引き続き、他の自治体、NPO組織、民間企業等との連携による対応・支援を進めていく必要がある。

## 下原地区の避難 経過と教訓

(自主防災組織の動き)

7月6日、夕方から住民に自宅2階へ避難を呼びかけ、22時すぎに避難。23時30分ごろアルミ工場が爆発。二次爆発の恐れがあるため、地区外へ避難誘導した。日頃からの訓練どおり、地区ごとのリーダーがくまなく地域をまわり、市と協力し、300人余りの住民が洪水・爆風の二重被害の中、一人の犠牲者を出すこともなく、無事避難した。

【7月6日】16:00 第1回自主防災組織打合せ(土砂崩れ、大雨対応)

⇒ 河川確認

22:30 第2回自主防災組織打合せ(洪水への対応)

⇒ 軽トラ設置の拡声器で全戸2階避難を呼びかけ

23:35頃 工場爆発、空家等数か所火災発生

【7月7日】0:34 市災害対策本部から連絡「二次爆発の恐れあり」

⇒ 直ちに全戸きびじアリーナへ避難指示あり

⇒ 7人の班長が雨中飛び出し、全戸に避難呼びかけ

⇒ 自家用車、公用車で避難開始

2:30頃 大半の住民が避難終了

4:30頃 全住民避難終了

8:00 全住民の所在場所、犠牲者ゼロを確認

(午前中に小田川決壊し地区が浸水との情報確認)

【7月9日】 午前中 避難所移動(久代分館、西公民館)

### 犠牲者ゼロの最大の要因

①8年前からの自主防災組織活動・避難訓練の積み重ね

(1)子供と要配慮者を中心に据えた防災、避難 (2)危機意識の継続

②普段から人と人との繋がり→地区内、行政(市、社会福祉協議会)

自主防災活動は地域力を高める

### 毎年継続して避難訓練を実施

- プロジェクトチームを作り、訓練内容を検討
- 3年計画で、大洪水、地震、夜間の訓練を実施
- 要配慮者対策として、車椅子を使用して模擬訓練を実施



夜間避難訓練

災害は  
時を選ばない！

非常食の試食



雨中訓練，救急法訓練など様々な訓練を実施